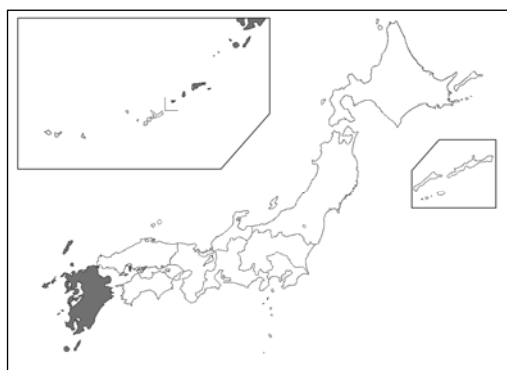


(10)九州



九州地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

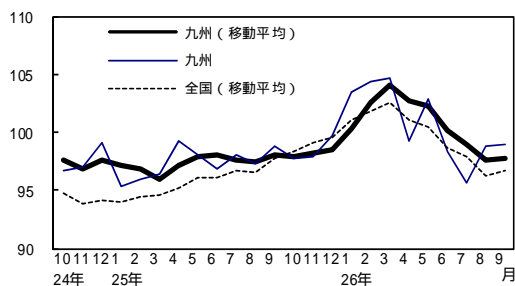
	前回(平成26年8月)	今回(平成26年11月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いており、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動も和らぎつつある	緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さがみられる
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している
個人消費	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあるものの、持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる
住宅建設	減少	大幅に減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ減少している。

7～9月期には、輸送機械は、国内向け車種の受注減少や一部車種で生産の海外移管が進んだこと等から減少した。電子部品・デバイスは、海外向けのスマートフォン用途の半導体集積回路(CCD)等で増加した。はん用・生産用・業務用機械は、一般用蒸気タービンや反応用機器等を中心に減少した。食料品は、プレミアムビールが好調であったこと等から増加した。化学・石油石炭製品は、パラキシレンを中心に増加となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
輸送機械	24.5	10.4	12.5	8.0	1.1	0.5
電子部品・デバイス	12.3	1.5	2.1	4.9	3.6	10.6
はん用・生産用・業務用機械	11.2	0.4	3.5	6.4	8.7	4.3
食料品	9.6	9.9	3.2	0.4	1.7	1.4
化学・石油石炭製品	8.3	2.3	3.2	1.6	14.5	1.3
鉱工業	100.0	3.7	2.4	2.7	3.3	0.2

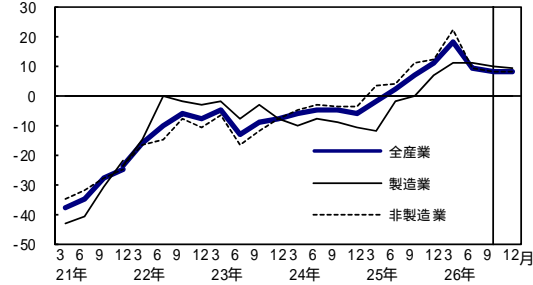
(備考) 1. 22年=100、季節調整値。九州の最新月は速報値。
2. 全国及び九州の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7～9月期、9月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

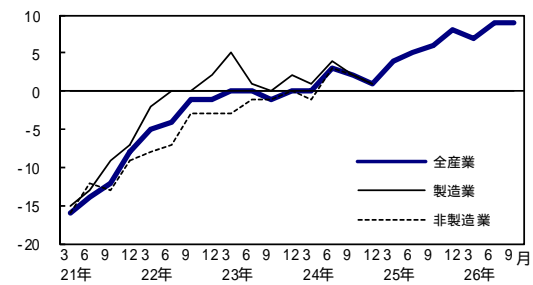
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



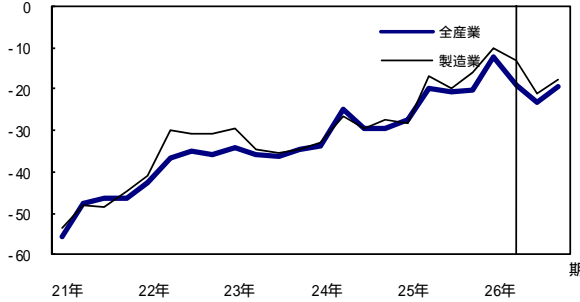
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。25年3月から製造業・非製造業は非公表となっている。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



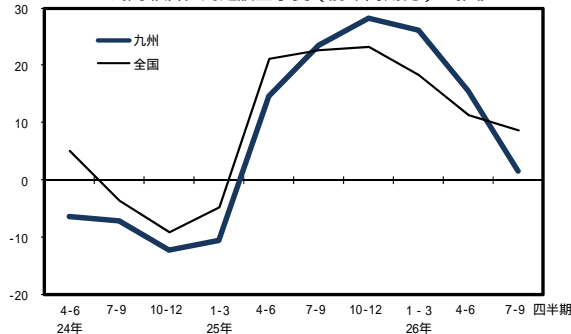
(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。九州(含む沖縄)地区のD I。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「受注量が不安定である。こちらの計画通りに上がらないのが現状である。ユーザーが買い控えしているか、様子見をしている状態であると考え(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。

(%) 民間非居住用建設工事費(前年同期比)の推移



企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]
(前年度比、%)

	25年度実績	26年度概
全産業	16.8	10.9 (1.1)
製造業	5.0	24.3 (2.8)
非製造業	27.0	6.2 (0.4)

(備考) 1.()は前回(6月)調査比修正率。
2.リース会社対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比1.4%減、8月は同0.4%増、9月は同1.4%増となった。

大型小売店販売額

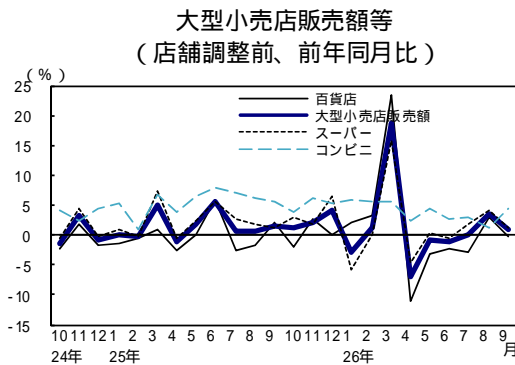
百貨店は、7月は、中旬までの天候不順による入店客数の減少等から、前年を下回った。8月は、下旬の気温低下で秋物商材が好調に動きだしたこと等から、前年を上回った。9月は、家庭用品や宝飾・貴金属の動きが鈍かったこと等から、前年を下回った。

スーパーは、惣菜や精肉など主力である飲食料品が堅調に推移したことに加え、住関連商品に動きがみられたこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

九州地域の家計動向関連DIは、44.8となり前月より2.9ポイント低下した。

「円安、燃油の高騰、情勢不安等、旅行意欲を減退させる要素が多く、海外旅行の取扱額は前年を割っている(旅行代理店)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。



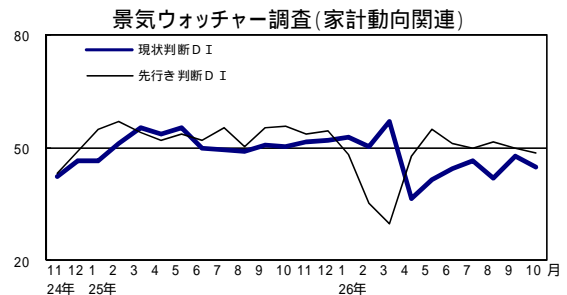
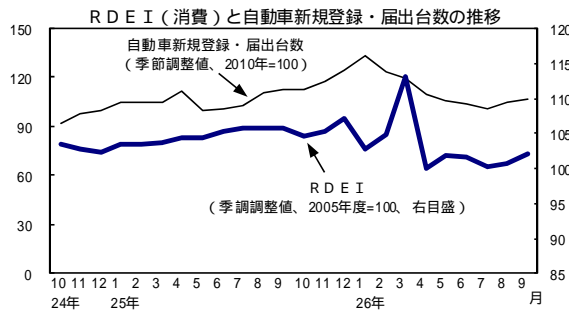
	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.2	1.4	0.4	1.4
大型小売店(*2)	1.5	0.0	3.7	1.0
百貨店(*2)	0.3	2.9	3.1	0.2
スーパー(*2)	2.4	1.7	4.0	1.5
コンビニ(*2)	2.8	2.9	1.3	4.3
乗用車(*3)	4.0	2.3	5.7	4.5
(季節調整値)(*3)	2.1	3.5	4.8	1.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 九州・沖縄地区、店舗調整前、前年同期(月)比(%)

コンビニは、平成25年1月以降は九州のみの数値

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

